

「乳児保育」、「小児保健実習」授業の実施時期について —教育実習、保育実習との関連から適切な時期を考える—

沼野 みえ子

An appropriate time for teaching subject of “Baby care” and “practice of infant health”
— Consider based on relation of teaching practice and nursery practical training —

Mieko Numano

はじめに

保育者になるためには、一般教養および専門分野を学ぶ「講義」、専門分野の具体的内容を学ぶ「演習・実技」、そして現場における実践を学ぶ「実習」などが必要で、多様な学習方法で組み立てられている。中でも実習は、「教科全般の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うために、実際に子どもに接する体験を通して、理論と実践の関係を習得しようとするもの⁽¹⁾」で、保育者養成課程において、「保育実習」および「教育実習」は欠くことのできない重要な役割を担っているといえる。

当校の幼児教育学科では保育士免許と幼稚園教諭2種の免許を取得することができる。両免許取得には88単位の履修が必要で、そのうち幼稚園教諭になるためには5単位（教育実習）、保育士になるためには7単位の実習（保育実習）を行わなければならない。回数にすると、卒業までの2年間に2回の教育実習（幼稚園）と3回の保育実習（保育所および施設）の計5回の実習を行っている。5回の実習のうち3回は1年生あるいは2年生の前期に終えており、残る2つのうち1つも2年次後期が始まってすぐの時期に設定されている（表-1）。

実習は、学内で学んだ知識・技能を保育実践の場で実際に子どもと接する体験を通して総合的に実践する応用力を養うことを目的としていることから、効果的な理論と実践の相乗効果を考えた場合、実習時期を考慮した科目履修順位や開講時期を考える必要があるのではないだろうか。

筆者が担当する乳児保育および小児保健実習^(*)の授業は2年生の後期に行われている（※乳児保育は2年生前期からの開講科目であるが、筆者が担当するのは後期からである）。小児保健実習では理論的な学習のほかにおむつ交換、沐浴、着脱、調乳、授乳、計測、口腔ケアなど実技演習を組み入れている。しかし1年次の保育実習報告会において、すでにおむつ交換、調乳・授乳などを体験したと報告する学生を多々見かける。学内で実技を学んでいない状態で実習に入り、実習場で初体験をしているのである。現場で保育者の指導を受けながら実践していると思われるが、学内での理論と現場での実践の融合を目指すという実習目的から見た場合、現行の乳児保育、小児保健実習の授業の実施時期が適切であるのか考えてみたい。

表-1

各実習実施時期（平成21年度の場合）
＜1年次＞ 1、青陵幼稚園での保育観察実習：5日間（2008.6月）
2、保育実習Ⅰ（保育所）：2週間（2008.8月～9月）
＜2年次＞ 3、保育実習Ⅰ（施設）：2週間（2009.5月～9月）
4、幼稚園実習（幼稚園）：3週間（2009.10月～11月）
5、保育実習Ⅱ・Ⅲ（保育所または施設）：2週間（2009.11月～12月）

1、目的

幼児教育学科における2年間の教育課程において、乳児保育および小児保健実習授業の実施時期を教育実習および保育実習との関連において検討する。

2、実施方法

- (1) 対象：新潟青陵大学短期大学部 幼児教育学科2年生129人
- (2) 時期：2年間に設定されたすべての実習を終えた時（2009年12月～1月）
- (3) 方法：質問紙による調査的方法（使用アンケートは資料①）

参加者に調査方法を説明し、個人が特定されないよう無記名による回答を集めた。

3、結果

幼児教育学科2年生129人にアンケートの協力を依頼し126人から回答を得た。回収率は99.3%であった。

実習ごとのアンケート結果は以下の通りである。

- (1) 1回目：青陵幼稚園での保育観察実習

入学直後の実習であり、見学・観察実習と位置づけられているため、子どもへの直接的なお世話の実施は17%強の学生にとどまっている [図1-①a・b]。実践体験は少なかったものの、事前勉強の必要性は4割強の学生が感じており、その内容はシュタイナー教育についてが最多であった [図1-②a・b]。科目では国語・言葉指導法が多く挙げられていた [図1-②c]。

図1-①a子どもの直接的なお世話

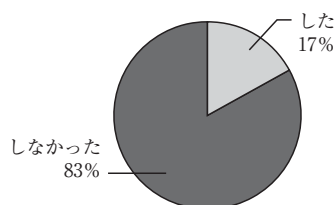


図1-①bした場合の内容

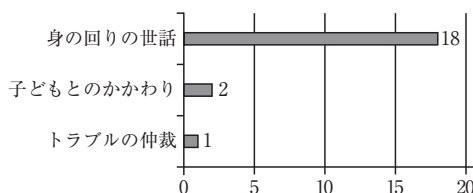


図1-②a事前勉強の必要性

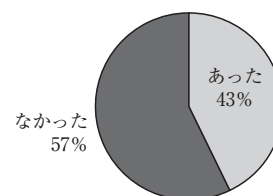


図1-②bあった場合の内容

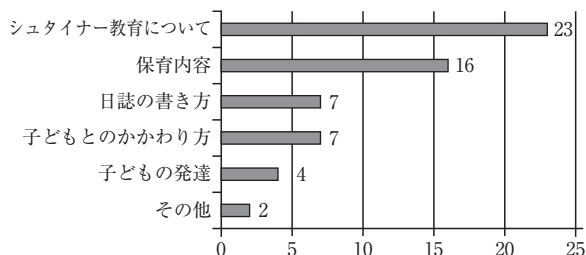
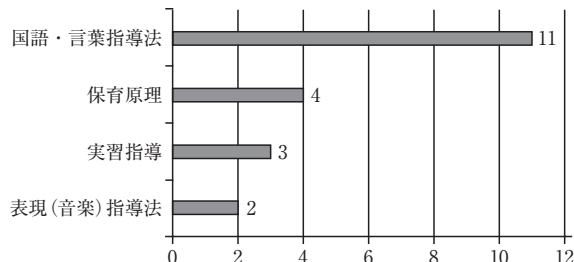


図1-②c科目でいうと



(2) 2回目：保育実習 I (保育所)

保育所内容・機能等を実施の体験を通して理解することを目的として位置づけられており、実習場では担任保育者の指導を受けながら助手として実習に臨んでいる。したがって全員が子どもの直接的なお世話を体験しており、着脱 (119人)、食事介助 (116人) は9割以上の学生が体験している。次いでおむつ交換91人 (83%)、おんぶ、口腔ケアが同数で66人 (52%)、授乳27人 (21%) であった [図2-①a・b]。

当該実習に関して事前勉強が必要であったと感じた学生は約8割 (98人) で、身の回りの世話が5割、次いで保育内容 (手遊び、絵本の読み聞かせなど) を上げている学生が2割であった [図2-②a・b]。事前に勉強が必要と感じた科目は乳児保育、小児保健実習が最多で3割であった [図2-②c]。

図2-①a子どもの直接的なお世話

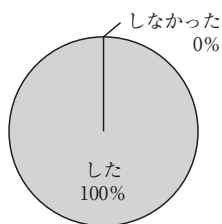


図2-①bした場合の内容

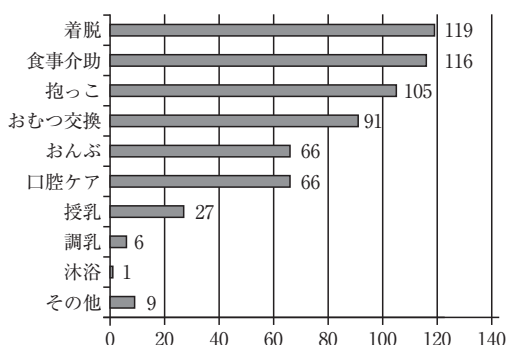


図2-②a事前勉強の必要性

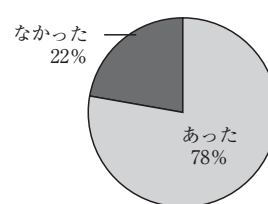


図2-②bあった場合の内容

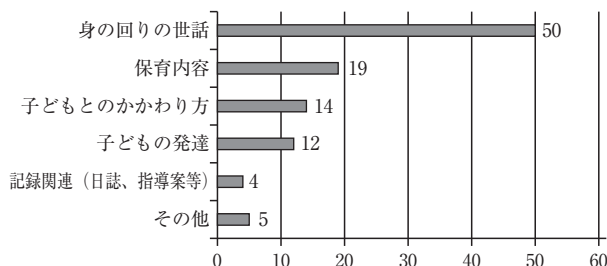
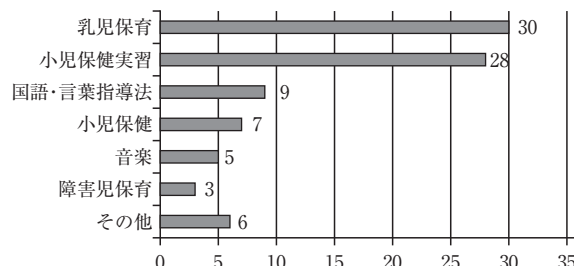


図2-②c科目でいうと



(3) 3回目：保育実習 I (施設)

保育所実習で習得した知識や理解および諸学科で学んだ理論をふまえ、施設養護の実践的指導技術や知識を習得するための実習である (実習先は図3-①)。実際には利用者への直接的なお世話を9割弱 (109人) の学生が体験しており、内容は食事介助、着脱、入浴介助、排泄介助、口腔ケアが多く6~8割を占めている [図3-②a・b]。

事前勉強が必要であったと感じた学生は5割以上(67人)あり、内容は施設・障害についての理解が最多で28人(42%)、次いで介護技術11人、疾病の理解9人で多かった。虐待についても4人の学生が事前勉強の必要性を感じていた[図3-③a・b]。科目では障害児保育(14人)、障害児保育(9人)、社会福祉概論(6人)が挙げられていた[図3-③c]。

図3-①実習施設

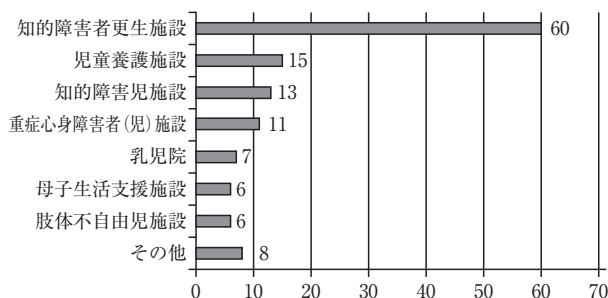


図3-②a利用者の直接的お世話

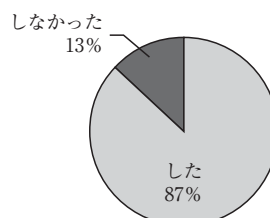


図3-②bした場合の内容

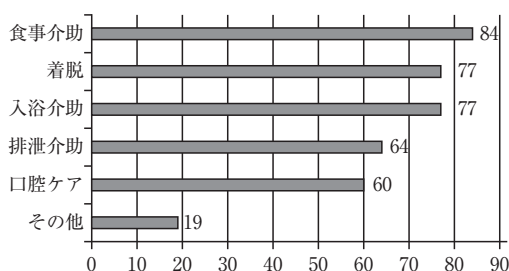


図3-③a事前勉強の必要性

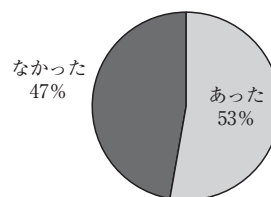


図3-③bあった場合の内容

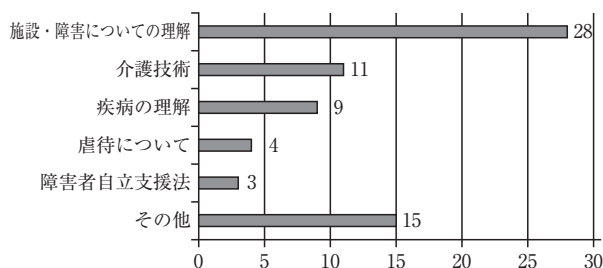
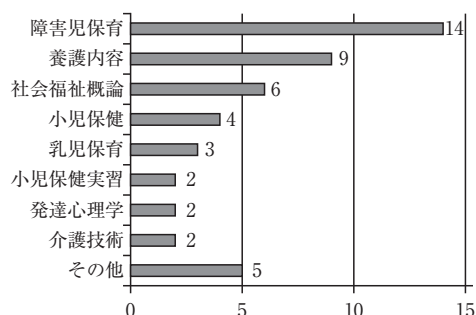


図3-③c科目でいうと



(4) 4回目：幼稚園実習(幼稚園)

総仕上げとしての実習で、児童観・保育観の確立に努め、保育内容の展開の実際を保育者の補助の立場で学ぶことを目的としている。子どもの直接的なお世話は約8割(99人)の学生が体験しており、その内容は着脱85人(86%)、食事介助56人(57%)が多く、口腔ケア13人(13%)、おむつ交換も9人(9%)が体験している[図4-①a・b]。

事前勉強の必要性を感じた学生は3割強にとどまっている[図4-②a・b]。科目でいうと音楽、国語・言葉指導法、実習指導、カリキュラム論などが挙げられていた[図4-②c]。

図4-①a子どもの直接的なお世話

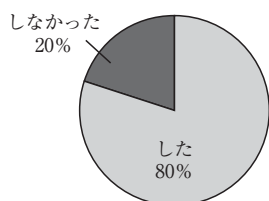


図4-①bした場合の内容

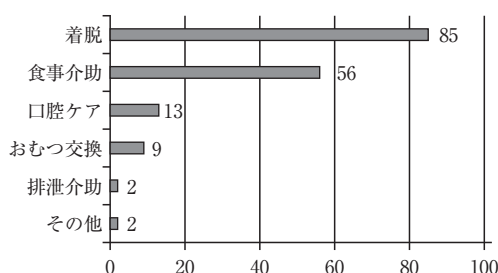


図4-②a事前勉強の必要性

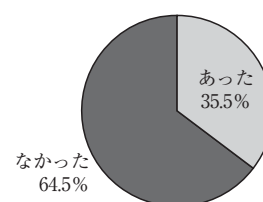


図4-②bあった場合の内容

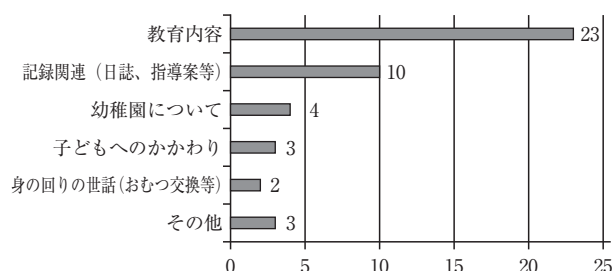
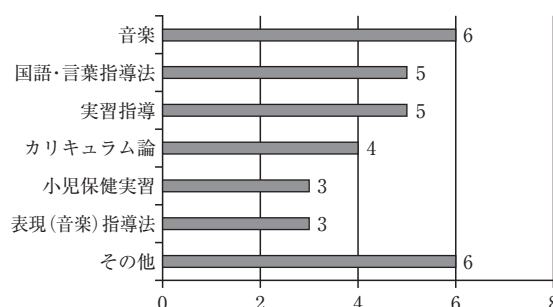


図4-②c科目でいうと



(5) 5回目：保育実習Ⅱ・Ⅲ（保育所または施設）

2年間の最後の実習である。豊かな人格形成および専門職としての自覚を持つことを目的とし、保育士の指導のもとに乳幼児の保育を学生自身が主体的に担当し、保育の場での具体化を学習する実習である。子どもへの直接的なお世話はほぼ全員（97%）が行っており、着脱、食事介助抱っこ、おむつ交換を7～9割の学生が体験している。次いで排泄介助、おんぶが5～7割、口腔ケア、調乳、授乳も1～2割の学生が体験している [5-②a・b]。

事前勉強の必要性はほぼ半数（58人）の学生が感じており、その内容は身の回りの世話（調乳、授乳、おむつ交換等）が17人、保育内容（手遊び、紙芝居等）が10人、次いで子どもの発達について9人、子どもへのかかわり方7人、障害の理解6人、病気・ケガへの対応5人となっている。科目として挙げられているのは乳児保育13人、小児保健実習10人、小児保健7人などである。 [5-③a・b・c]

上記から、実習での実技体験は保育所、幼稚園、施設でそれぞれ若干異なっていることがわかる。保育所も幼稚園も着脱、食事介助など身の回りの世話が多くのことは共通しているが、保育園ではさらに抱っこ、おむつ交換、おんぶ、口腔ケア、授乳なども高い率で体験している。施設実習でも着脱、食事介助の体験は多いが、その他に入浴介助や排泄介助などが特徴的である。事前に学習しておけばよかったと思う内容・科目については、保育園実習では身の回りの世話が多く、科目では乳児保育、小児保健実習である。幼稚園実習では手遊び、ピアノ、教材研究など教育内容についてが多く、身の回りの世話は少ない。施設実習は施設・障害についての理解や介護技術が多く、科目では障害児保育、養護内容が挙げられていた。

実習順に事前勉強の必要性をみみると、最初の幼稚園実習ではシュタイナー教育についてが圧倒的に多く、次いで記録関係、特に日誌の書き方についてが多かった。次の保育園実習では身の回りの世話と保育の中身についてが多くなり、卒業を前にした最後の保育実習では病気やケガへの対応が出てきている。また実習回数を重ねるごとに事前に勉強しておけばよかったと感じた学生は減少している。

図5-②a子どもの直接的なお世話

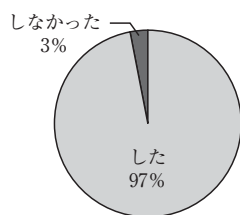


図5-②bした場合の内容

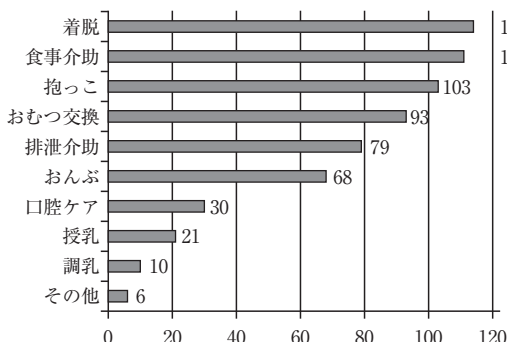


図5-③a事前勉強の必要性

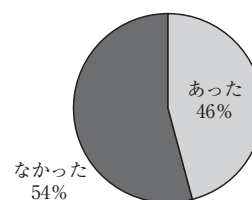


図5-③bあった場合の内容

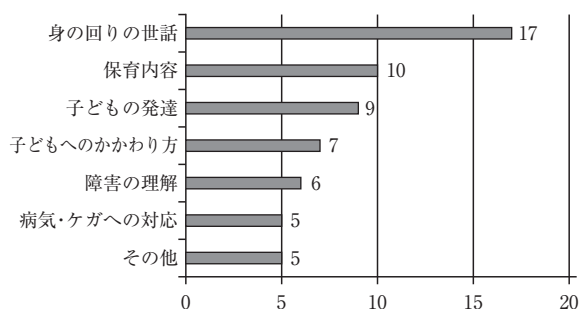
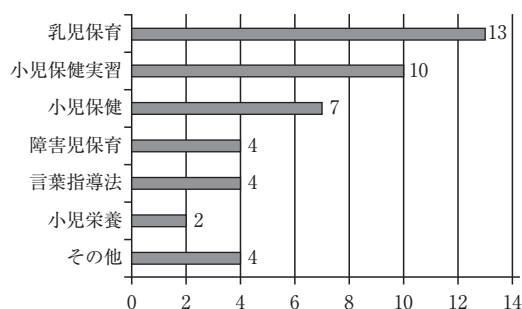


図5-③c科目でいうと



4、考察

実習の時期は、原則として学内である程度諸教科を学んでから行うことが望ましいとされている。かつて実習は「養成課程の総仕上げとして、カリキュラムの中では2年課程の場合は2年次に、4年制大学では4年時に位置づけられていた」とある⁽²⁾。しかし、現在は養成課程のスタート時に位置づけられていることが多い。当校のように保育士資格と幼稚園教諭免許状の2種類を同時取得する場合、全ての実習を2年次に行うことは時間的に過密スケジュールになる。また最終年次の総仕上げ的な時期に実習が集中的に設定される場合、そこまで動機を持続することが難しいことや、保育者への適性について早期に気付く機会を逸すること、などが考えられる。また早期に実習体験をすることは早期に自分の欠けているところに気づくことができ、次の実習で修正することも期待できるなどの理由から1年次から実施している養成校が多い。アンケート結果からもそのことがうかがえる。事前勉強の必要性を実習順にみると、当初勉強不足を感じた内容が次の実習では挙げられておらず新たな内容に移っている様子がわかる。実際に実習場へ出てみて自分の不足部分に気付き、学習し直して次へ臨み、また新たな課題を感じてきていることが推察される。

しかし、厚生労働省は実習を最終年次に実施することを努力義務としている。平成20年の福祉所管の養成施設連絡会議資料には「2年課程の養成施設にあっては、保育実習実施基準の第2の3の『保育実習を行う期間は原則として第2学年の期間』とされているので、今後は少なくとも第1学年の後期授業が修了した段階またはそれ以降に実施すること⁽⁴⁾」となっている。当校でもそれを受けて平成22年度から1年次の保育実習Ⅰは夏期から年度末に移行する予定である。しかしいずれにしても乳児保育および小児保健実習の授業は未実施状態での実習となる。

乳児保育の教育目標は、「保育所、乳児院、家庭における乳児保育の現状と課題および保育者の役割を理解するとともに、3歳未満児の保育に関する基礎的な知識・技術を学ぶ」となっている。また、子育て支援の視点から保護者との連携の取り方についても採り挙げられている。現在筆者が授業で力を入れているのは、乳児期の心の育ちを保証するための、大人による受容の大切さと、自己肯定感を持つことの重要性である。それらを実現するためには保護者への支援が欠かせないところから、保護者対応について現場における事例を用いながら授業を行っている。小児保健実習の教育目標は、「集団生活における保健管理、保健指導の基本、緊急時における基礎的な対応について実習を通して学ぶ」ことであり、理論の学習に加えて、健康教育の企画・発表、保健だよりの作成、その他実習室における乳幼児の世話などの実技を中心に授業を組み立てている。

アンケートでは保育実習Ⅰおよび保育実習Ⅱともに子どもの身の回りの世話をほぼ全員の学生が実施しており、事前勉強の必要性については乳児保育、小児保健実習が高率を示している。自由記載欄にも、「最初の保育園実習でおむつ交換や授乳の仕方がわからず戸惑った。小児保健実習など実践的な内容の授業は1年生の保育実習前にあったほうがよい」という意見が数件(23件)よせられている。早期の実習体験は学習意欲につながることが期待できる反面、学内での実技が未体験の状態の実習に出るため、技術面への自信のなさから実習に消極的になったり、自分の適性に不安を持つ学生が出ることも考えられる。

デボラ・J・スティベックは著書「MOTIVATION TO LEARN From Theory to Practice.1999」の中で、ホワイト(White, 1959)およびピアジェ(Piaget, 1952)が支持した有能性について紹介している。おとなも子どもも「有能動機づけは、中程度の難しく、かつそれに対する努力が彼らの能力を増すような挑戦的課題についてのみ努力する⁽⁵⁾」ということである。上淵寿は著書「動機づけ研究の最前線」の中で、達成動機づけについてアトキンソン(Atkinson, 1964)の「達成傾向」と「失敗回避傾向」の2つの変数について紹介している。人が何かを成し遂げようとするとき**達成傾向**(達成欲求[難しいことを成し遂げようとするその人の傾向]×主観的な成功率[成功する見込み]×成功の誘因価[成功の時に感じる誇りなどの感情])から**失敗回避傾向**(失敗回避要求[失敗を避けようとするその人の傾向]×主観的な失敗確率[失敗する見込み]×失敗の誘因価[失敗したときに感じる恥などの感情])を差し引いた**数値**によって達成行動が起こるという理論である。達成傾向が高く、失敗傾向が低ければ達成行動を起こし、逆の場合は達成行動を起こさないということである。このことは認知的アプローチからも同様のことが言える。可能性がないと思えることにやる気を起こすことは稀であり、成功する見通しがあればやるという期待理論である。実習前に学内で多少でも経験していることであれば、直接子どもに行ったことはなくても挑戦的課題となり「もしかしてできるかもしれない」という達成行動に結びつく。しかし一度も体験したことがないこの場合は、「出来なかったらどうしよう」という失敗回避傾向が生じ消極的になることが考えられる。

アンケートの結果および学習意欲への動機づけの観点からも、現在乳児保育、小児保健実習授業で取り上げている内容は早期に学習することが望ましいのではないだろうか。1年生の後期か、遅とも2年生の前期に授業を行い、実習前に多少でも体験していることで拒否感よりも好奇心をもって実習に挑めるのではないかと考える。しかし、幼児教育学科は2年間で保育士、幼稚園教諭の両方の免許に必要な単位を取るために、学内における授業も実習もタイトなスケジュールになっている。ある程度学内での学習を積んでから実習へ出るとなると、すべてが同時スタートしないと実習に間に合わないという状況も生まれ、カリキュラム上不可能といわざるを得ない。養成校によっては、実習に出る前に必要な実技等について1~2コマ担当教員から授業を行ってもらうなどで事前学習を充実させているところもある

(帝京学園短期大学)。この養成校では次年度のシラバスを検討する段階で全教員による授業の内容確認を行っている。したがって実習に向けてはいつ頃どのような授業内容が行われれば学生にとっても学習効果が高く、また実習施設にとっても望ましいのかを明らかにし、必要に応じて臨機応変に授業の入れ替えを行っているということである。これは規模が小さいために(1学年40人)可能であると説明されたが、果たして規模だけのことであろうか。

筆者が担当する授業を、実習との相乗効果を考えた場合いつ頃実施するのが望ましいのかということを探るために実施したアンケートであった。アンケート結果からは早期に行うことが望ましいようであるという傾向は見えたが、実習に向けて効率的な授業の順番や時期についてはこれからの検討課題である。学内の学習と実習施設での実習を2年間でより効果的に行い、現場が求める保育者を育成するには各授業内容全体を検討し、各実習における目標と照らし合わせながら優先順位や開講時期を決めるという学科全体での取り組みが必要であると思われる。

5、課題

今回は、実習に関して学生からの意見を集計したが、同時に実習生を受け入れる施設側の意見も合わせて考える必要がある。かつて当大学短期大学部の幼児教育学科で、保育者養成期間が2年制がよいか4年制がよいかについて新潟県内幼稚園および保育園に対してアンケートを実施したことがある⁽⁸⁾。今回の研究の直接的な回答にはなっていないが、現場が保育者に求めることが把握できた。それによると、公立・私立、幼稚園・保育園を問わず、「人柄のよさ」を大前提とし、その上で「教養と基本的マナー」を備え、仕事に「意欲・情熱」を持ち、周りの「状況判断」を的確に行い「臨機応変」な対応ができる人を求めていることがわかる。専門性に関しては「子どもへの理解」「遊びなどの実践力」「安全への意識」を持ち合わせ、「研究熱心」であり、「障害児保育に対する理解」「ピアノ技能の高さ」が要望として挙げられている。

今後カリキュラムを検討する際には、これら現場の求める保育者像も念頭に置きながら取り組む必要があると思われる。

【引用・参考文献】

- (1) 岸井勇雄、他、「教育・保育実習」(現代幼児教育研究シリーズ12) チャイルド本社、2002、12-13
- (2) 教育・保育実習を考える会編、「幼稚園・保育園実習の常識—成果を上げるポイント66—」、蒼丘書林、2005、16
- (3) 待井和江、福岡貞子編、「保育実習・教育実習 第6版」、ミネルヴァ書房、2009
- (4) 畠山倫子、「教育・保育・施設実習」、三晃書房、2005
- (5) 関東甲信越厚生局健康福祉部福祉課、「平成19年度福祉所管の養成施設連絡会議資料」、平成20年3月12日、15
- (6) ボラ・J・ステイバック著、馬場道夫監訳、「やる気のない子どもをどうすればよいか/MOTIVATION TO LEARN From Theory to Practice,1999」、二瓶社、1999、74
- (7) デニス・A・デカタンザロ著、浜村良久監訳、「動機づけと情動」、共同出版、2005
- (8) 上淵寿編著、「動機づけ研究の最前線」、北大路書房、2004
- (9) 新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科「保育者養成に関するアンケート」、2008

アンケートへのご協力依頼

(資料①)

(幼児教育学科 2 年生) 記入日：2009 年 月 日

幼児教育学科の皆さんは2年間でたいへん多くの科目を勉強しています。学んだことを現場で実践するさまざまな実習もあります。このアンケートは、2年間ににおける学びをより効果的にするために乳児保育および小児保健実習授業の実施時期を検討するために行うものです。下記の設問に答えて記入してくださいませう、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。
また個人のプライバシーは堅く守られますことを申し添えます。

記憶を呼び起こしていただくために、入学してからの実習を記しました。それぞれの実習につきましてご回答ください。

≪ 1 年時 ≫ 1、青陵幼稚園での保育観察実習：5 日間 (2008.6 月) 2、保育実習 1 (保育所)：2 週間 (2008.8 月～9 月) ≪ 2 年時 ≫ 3、保育実習 1 (施設)：2 週間 (2009.5 月～9 月) 4、幼稚園教育実習 (幼稚園)：3 週間 (2009.10 月～11 月) 5、保育実習 II・III (保育所または施設)：2 週間 (2009.11 月～12 月)

1、「青陵幼稚園での保育観察実習」に関して (該当するところを○で囲んでください)

①子どもの直接的なお世話はしましたか… ・した ・しなかった
 した場合、どんなことをしましたか?→ ()

②事前に勉強しておけばよかったと思ったことはありませんか… ・あった ・なかった
 あった場合、それは何ですか?→ ()

科目で言うとなんでしょうか?→ ()

2、「保育実習 I 保育所実習」に関して (該当するところを○で囲んでください)

①子どもの直接的なお世話はしましたか… ・した ・しなかった
 した場合一抱っこ、おんぶ、おむつ交換、着脱、食事介助、口腔ケア、調乳、授乳、沐浴、
 その他 ()

②事前に勉強しておけばよかったと思ったことはありませんか… ・あった ・なかった
 あった場合、それは何ですか?→ ()

科目で言うとなんでしょうか?→ ()

3、「保育実習 I 施設実習」に関して (該当するところを○で囲んでください)

①あなたはこの種別の施設に行きましたか
 知的障害者更生施設、児童養護施設、知的障害児施設、肢体不自由児施設、母子生活支援施設、
 乳児院、その他 ()

②利用者の直接的なお世話はしましたか… ・した ・しなかった
 した場合一食事介助、着脱、排せつ介助、おむつ交換、入浴介助、口腔ケア
 その他 ()

③事前に勉強しておけばよかったと思ったことはありませんか… ・あった ・なかった
 あった場合、それは何ですか?→ ()

科目で言うとなんでしょうか?→ ()

4、「幼稚園教育実習」に関して (該当するところを○で囲んでください)

①子どもの直接的なお世話はしましたか… ・した ・しなかった
 した場合一おむつ交換、着脱、食事介助、口腔ケア、調乳、授乳、沐浴、
 その他 ()

②事前に勉強しておけばよかったと思ったことはありませんか… ・あった ・なかった
 あった場合、それは何ですか?→ ()

科目で言うとなんでしょうか?→ ()

5、「保育実習 II・III」に関して (該当するところを○で囲んでください)

①あなたが行った施設は→保育園、施設 (種別) ()

②子どもたち (利用者) の直接的なお世話はしましたか… ・した ・しなかった

した場合一食事介助、着脱、排せつ介助、おむつ交換、入浴介助、口腔ケア、抱っこ、おんぶ、
 調乳、授乳、沐浴、その他 ()

③事前に勉強しておけばよかったと思ったことはありませんか… ・あった ・なかった
 あった場合、それは何ですか?→ ()

科目で言うとなんでしょうか?→ ()

6、その他授業に関する事などご意見を自由にお書きください。

—————ご協力ありがとうございました。

